

## 標準設計の開発と住棟のアクセスパターン

団地設計の初期においては、住棟住戸は標準設計を共通的に活用することとし、新たな業務である団地の配置設計に精力的に取り組もうとした。

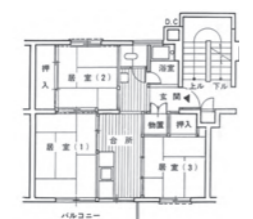
標準設計はDK型プランなどにより新たな生活提案を行うと同時に、いろいろな配置設計に対応できるように住戸へ至る経路・方法が異なる階段室型、廊下型、ポイント型など多様な住棟を用意した。

### 標準設計の整備

標準設計は公営・公務員住宅の標準設計を活用し、昭和30年(1955)に初めて「55」型を整備した。その後規模・型式を構造・アクセス・棟形状別に整理して「57」型とした。昭和38年(1963)にはそれまで各支社で整備していたものを全国で統一し「63」型とした。「63」型は800mmモジュールで「団地サイズ」と批判が強く、「67」型で900mmモジュールを採用した。標準設計は設計の合理化に加え、大量生産が求められた生産・施工の分野で大きな役割を果たした。体系的に整理された標準設計は、その後の量産化に向けた工業化の導入、仕上・設備の部品化などに繋ぎ続けた。



55-3.4N-2DK型 13.0坪



3K-3型  
57-4N-3K-3型 14.9坪



63-3.4.5N-3DK型 16.6坪

### ポイント型住棟

#### スターハウス住棟・P

昭和30年代、1階段室・1フロア3戸で構成し、住戸を三方向に開いた形の住棟形式があった。3戸が星形に開いているところからスターハウスと名付けられている。板状住棟中心の配置の中で、アクセントとなる景観形成住棟であった。



#### ボックス住棟・B

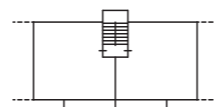
昭和40年代、スターハウスは工事費がかかるため、1階段室・1フロア2戸で構成するボックス住棟が考案された。宅盤調整の難しい傾斜地対応や、スターハウスと同様、景観上のアクセントをつける目的で使用した。



### 住棟形式

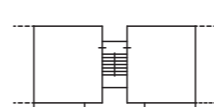
#### 階段室型・N、S

中層住宅のアクセスの基本は階段室である。北入りをN型、南入りをS型としている。



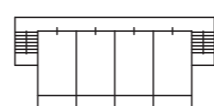
#### 階段室ジョイント型・J

丘陵地や不整形敷地での配置にあたり、階段室部分で高低差や前後の調整を行う。階段室分離型とも呼ぶ。



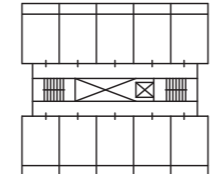
#### 廊下型・C

片廊下型をC型(コリドール)、中廊下型をMC型とし、ラーメン構造や施設付き住棟などに多く採用した。



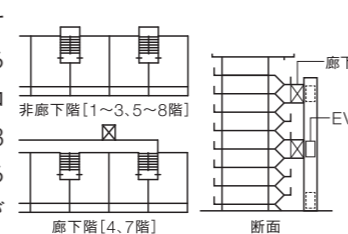
#### ツインコリドール型・TC

片廊下型住棟を背中合わせにした廊下型住棟をTC型(ツインコリドール)住棟という。南北軸で配置されることが一般的である。



#### スキップ廊下型・Cs

階段室に加え、3階ごとに着床するエレベーターと共用廊下がある住棟をスキップ廊下型と呼びCs(コリドール・スキップ)と表記する。3階ごとに住戸が共用廊下に面する階と、階段室型と同様に住戸が直接外気に面する階がある。



#### テラスハウス・T

2階建て専用庭付きの長屋(連続建)住棟である。北入り、南入りに応じてTN、TSと表記した。



### 住宅の型式の表示方法

これらの住宅の形式は、記号化され図面に表記されている。

#### 67-5N-3DK-分

1967年 本社標準設計/  
5階建て北入り階段室型/  
3DK/分譲タイプ

#### 特73T-11B-2DK-R

1973年 東京支社特殊設計/  
11階建てボックス型/2DK/  
ラーメン構造

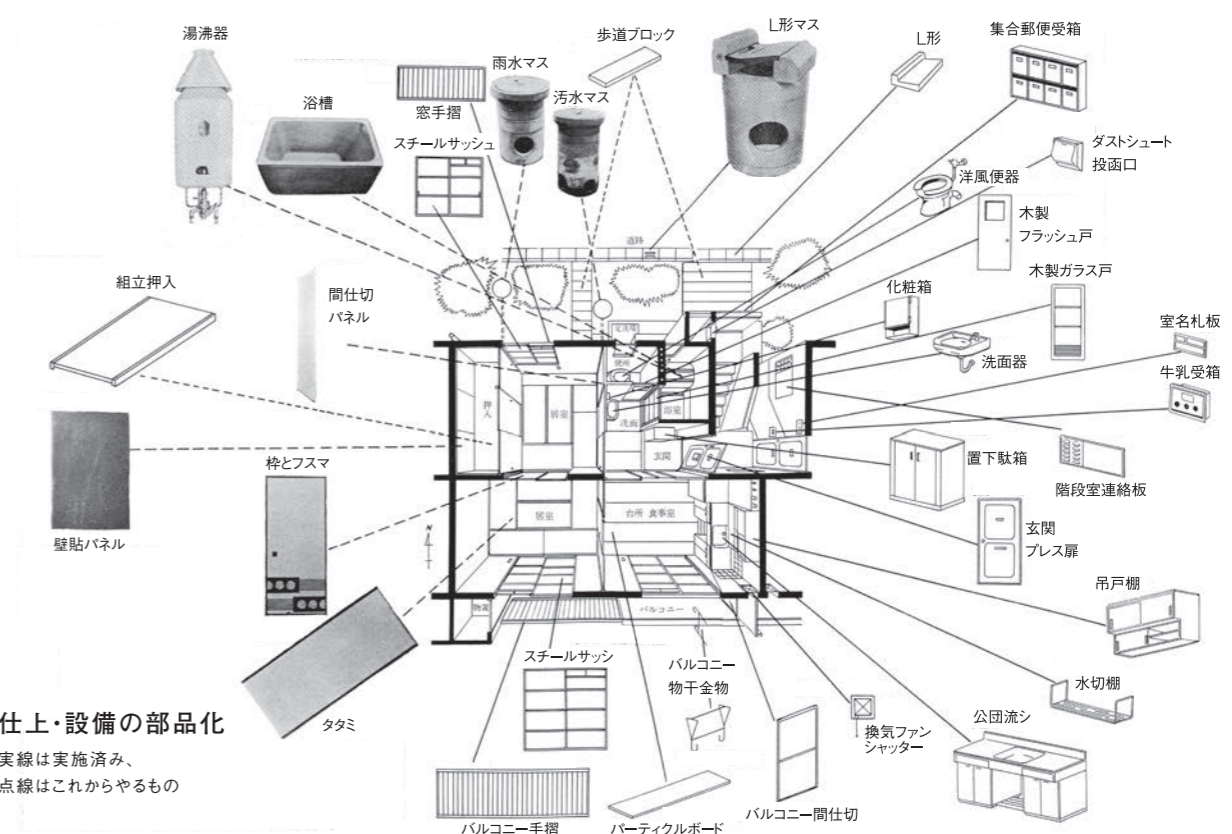
## 標準設計による設計と施工の合理化

公団発足当時、RC造の集合住宅はまだ多くなかった。

公団は標準設計により、設計の効率化を図ると同時に、施工の分野でも部品化や工業化による合理化を進めていった。

### 公団住宅の品質確保 部品化による設計と施工の合理化

住宅の設計と施工においても、新しい手法を採用した。量産と品質確保に向けて住宅の部品化や工業化を進め、まだ日本になかったステンレス流し台やシンダー錠などは公団自らが開発・供給し、生活と生産の両面において公団住宅は高度経済成長期の日本のすまい造りを推進していった。



#### 仕上・設備の部品化

実線は実施済み、  
点線はこれからやるもの

規格化された住宅部品(1962年7月、公団社内報「いえなみ」)  
昭和37年の社内報「いえなみ」には、当時すでに導入されていた部品が分かりやすく説明されている。その後の住宅建設における部品化は、国の「公共住宅用規格部品(KJ部品)」、「優良住宅部品(BL部品)」制度に受け継がれていくが、すでに公団独自の取組みが先導的かつ広範囲に進んでいた。

### ■ コラム 住宅管理での工夫

公団発足当初は住宅管理の面においても初めてのことで、工具を積んだサービスカーでの巡回修理や団地での暮らし方について、公団自ら生活指導をするための職員(ヘルパー)を配置するなど、多くの工夫の中で団地での暮らしがはじまっていった。



初期の公団サービスカー